



Data

監督: ニック・ハム

出演: リー・ペイス/ジェイソン・サダイキス/ジュディ・グリア/コリー・ストール/イザベル・アレイザ/マイケル・カドリッツ/エリン・モリアーティ/イド・ゴールドバーグ/ジャスティン・バーサ/ジェイミー・シェリダン/ユウジ・オクモト

■■■ショートコメント■■■

◆車のドアは最近スライド式のものもあるが、一般的にはドアが外に開くタイプのもの。しかし、ごく一部のスーパーカーには、ドアが上に開くタイプがある。私はまったく知らなかったが、そんな車デロリアン (DMC-12) を開発したのが、ゼネラルモーターズ (GM) でポンティアックGTOの開発に携わった天才エンジニアのジョン・ザッカー・デロリアン。

『ジョン・デロリアン』と題された本作は、そんな男の波乱万丈の一生を描くもの。とはいっても、わずかに彼の理想と夢を注ぎ込んだDMC-12が生産されたのは3年だけで、自ら立ち上げた自動車メーカーも倒産してしまったそうだから、本作が描くのは1979年から始まるその時期だけだ。さあ、ジョン・デロリアンとは一体どんな男?

◆本作のタイトルは『ジョン・デロリアン』だが、導入部のストーリーに主役として登場するのは、パイロットのジム・ホフマン (ジェイソン・サダイキス)。どうやら彼は麻薬の運び屋を副業としており、本作の導入部は、ボリビアから大量のコカインを運んでいる彼の妻を描いている。もっとも、FBIのベネディクト・ティーサ (コリー・ストール) がジムを逮捕したのは、より大きな麻薬ディーラーを釣り上げるべく、ジムを情報提供者に仕立て上げるためだったらしい。

そんな導入部を経て、ジムは、妻エレン (ジュディ・グリア) と共にサンディエゴ郊外のパウマ・ヴァレーに引っ越してきたが、そこでやっと本作の主人公ジョン・デロリアン (リー・ペイス) が登場してくることに。

◆ジムとジョンの関係は、あくまで「隣人」。そして、ジムにとってジョンの豪邸やそこで開催される華やかなパーティーは憧れそのもの。他方、情報提供者に仕立て上げられたジムに、ベネディクトが命じた任務は、ジムの雇い主だった超大物の麻薬ディーラー、モーガン (マイケル・カドリッツ) の情報提供だ。あの時、ジムのヘマによって大量のコカイン

ンを没収されてしまったモーガンは、ジムをFBIのスパイだと疑っていたから、そんなモーガンから新たな情報を仕入れなければならないジムは大変だ。

しかし、そんなジムの物語が、ジョン・デロリアンの物語と何の関係があるの？どうも、本作はそこらあたりがわからないままだが・・・。

◆ジムの目の前にはじめて登場した、長身でハンサムなジョンのカリスマ性は十分。自宅で開いたパーティーで、新型車のアイデアを語る姿も魅力的だから、これなら資金集めも順風満帆・・・。私にはそう思えたが、現実はそのもいかなかったらしい。デロリアン社が生産したデロリアン（DMC-12）は3000台しか売れず、在庫車は差し押さえられ、不正経理が発覚してイギリス政府も投資を取り下げたそうだから大変だ。

そこでジムが思いついたとんでもない計画は、ジョンをコカイン取引に引き込んで、モーガンとデロリアンをまとめて逮捕させようというもの。それは一体ナニ？そうなるとジョンは一方的な被害者？

◆私は本作ではじめてジョン・デロリアンという人物を知ることができたから、本作でも「映画は勉強！」と実感。しかし、同時に、本作ではその人物像の突っ込みが極めて不十分なことも実感。それは、「この男、詐欺師か天才か」という問題提起のうちの詐欺師の面にウェイトを置きすぎ、天才の面が少しおざなりになっているからだ。

2020年元旦の新聞は、自動走行、一人乗り、そして、空飛ぶ車まで、車の未来についてさまざまな夢を語っているが、優秀なエンジニアであったジョン・デロリアンの本質は、その車づくりの夢にあったはず。そして、それが結実したのはデロリアン（DMC-12）だったはずだから、本作ではその夢の部分をもっと描いて欲しかった。本作を観てそう思ったのは、私だけ・・・？

2020（令和2）年1月4日記